



協力会だより

第45号

発行 山梨県立考古博物館協力会

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923

発行日 令和4年4月1日発行

電話 055-266-3881

ホームページ www.y-kyouryokukai.jp/

 @kh_kyouryokukai

令和2・3年度協力会

2年間のあゆみ



R2 活動

- ・令和2年度考古博物館協力会総会 (中止)
- ・ミュージアムショップ (4~12月)
- ・ボランティアガイド (中止)
- ・学校勾玉作り・火起こし体験補助 (中止)
- ・こどもまつり (中止)
- ・第38回特別展 (中止)
- ・各イベント (中止)

R2 研修

- ・勾玉作り、火起こし体験研修 (中止)
- ・ボランティアガイド研修 (中止)
- ・春季企画展勉強会 (中止)
- ・夏季企画展勉強会 (7/29・8/2)
- ・秋季企画展勉強会 (10/8・11)
- ・冬季企画展勉強会 (12/16・19)
- ・県内研修 (2/18・21)

R3 活動

- ・令和3・4年度考古博物館協力会委嘱状交付式
- ・令和3年度考古博物館協力会総会 (4/10)
- ・ミュージアムショップ (4~12月)
- ・ボランティアガイド (中止)
- ・学校勾玉作り・火起こし体験補助 (4~12月)
- ・こどもまつり (5/3・4)
- ・特別展準備作業 (9/24・25)
- ・第38回特別展「甲府城のすべて」 (9/30~11/23)
- ・常設展復旧作業 (11/27・28)
- ・県民の日イベント「ENJOY! 甲府城」 (11/20)
- ・お正月イベント (1/3)

R3 研修

- ・勾玉作り、火起こし体験研修 (4/17・21)
- ・ボランティアガイド研修 (前期: 7/4・6)
- ・春季企画展勉強会 (5/12・16)
- ・夏季企画展勉強会 (7/18・8/1)
- ・特別展勉強会 (10/6・9)
- ・冬季企画展勉強会 (12/23・25)

令和3・4年度山梨県立考古博物館協力会委嘱状交付式 令和3年度山梨県立考古博物館協力会総会



令和3年4月10日（土）、風土記の丘研修センターにて山梨県立考古博物館協力会委嘱状交付式および総会が開かれました。

委嘱状交付式では、新たに25名の新協力員さんをお迎えし、93名の協力員のみなさんに保坂康夫新会長から委嘱状が交付されました。10年間、協力員を務めていただいている

2名の方々に永年感謝状が贈呈されました。

総会では、今年度の事業の話し合いの他に、ボランティアガイド証マスター証の授与がありました。

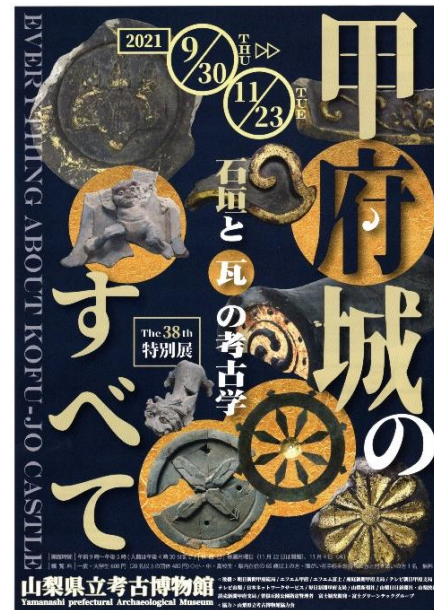
—昨年度から新型コロナウイルス感染拡大防止のため、多くの事業で例年通りの開催が難しい状況が続いています。協力員のみなさんには、本来の活動ができず、ご迷惑をおかけしていることを申し訳なく思っております。諸活動に御理解、御協力いただき、温かく支えていただいていることに感謝いたします。



考古博物館 第38回特別展 「甲府城のすべて」

令和3年9月30日（木）～11月23日（火）の期間、第38回特別展『甲府城のすべて-石垣と瓦の考古学-』が開催されました。昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い開催を見送りましたが、一年越しに特別展を開催することができました。46日間の会期中、コロナ禍前には及ばないものの、県内外から多くの方にご来館いただきました。入館者は4,700人を超え、今年度は新たな試みとして「ナイトミュージアム」を開催。暗闇で懐中電灯に照らされた金箔瓦は、一層輝いて見えました。

当館には特別展示室がないため、会期前後に常設展の撤収作業、復旧作業を行う必要があります。撤収作業に毎年携わっていただいているベテランの協力員さんの手際の良さと、新規協力員さんの考古資料に触れる真剣な面持ちがとても印象的でした。今年もたくさんの方々に御協力をいただきました。ありがとうございました。



特別展撤収作業の様子



復旧作業ほのぼのとした休憩時間



特別展お当番の様子

写真とともに振り返る活動・研修の記録

R3 5/3・4 第32回風土記の丘こどもまつり

検温等の感染対策にも臨機応変に対応していただき、スムーズな運営ができました。



R3 10/17 ふれあいまつり・11/20 県民の日イベント R4 1/3 お正月イベント

協力員さんの子ども達を見守る優しい眼差しが印象的でした。



【勾玉作り・火起こし体験研修】【ボランティアガイド研修】

積極的に参加していただき、有意義な研修会となりました。



【特別展・各企画展の勉強会】

特別展や各企画展の会期中に、勉強会を開いています。コロナ対策で少人数に分けての開催でしたが、質問も多く、毎回充実した勉強会になっています。



R2県内研修 2/18・21

研修地：釈迦堂遺跡博物館・花鳥山遺跡（笛吹市）

令和2年度の県内研修は、令和2年6月にリニューアルオープンした釈迦堂遺跡博物館と冬季企画展で紹介されていた花鳥山遺跡を訪れました。新型コロナウイルスの影響で協力会の活動が思うようにできない中、感染症予防対策として、人数を少なくするために、2日間に分けて行いました。

釈迦堂遺跡博物館では、協力員でもある八巻副館長に釈迦堂遺跡の発掘当時のことや発掘から博物館が開館するまでの経緯等について、お話をいただきました。



した。展示室では、リニューアルのコンセプトや釈迦堂博物館ならではの展示の見方等について教えていただきました。常設展も特別展も見学し、釈迦堂遺跡について満喫することができました。その後訪れた花鳥山遺跡では、発掘された場所を実際に歩き、周りの風景を見ながら、縄文時代に思いをはせました。2日間とも天気がよく、甲府盆地や周りの山々をはっきりと見ることができ、とても気持ちのいい場所でした。考古学や歴史についての学習とともに、協力員さん同士の交流も深めることができた研修だったと思います。

【協力員さんの研修記】

加藤 進さん

2月18日は、天気も良く、風もなく穏やかな日に県内研修ができて、感謝しております。リニューアルしてから10月頃、一度釈迦堂遺跡博物館に行きましたけれど、やはり説明を聞いて、この博物館ができた経緯もわかり、見るポイントも違いました。

世界の四大文明が起きた時代に日本列島のまん中に土器と土偶とたて穴住居を中心とした縄文文化が開いたことに驚きを感じます。

説明してもらった釈迦堂遺跡博物館が出来た当時の資料やまわりの今の千米寺遺跡の桃畑にある古墳みたいなどの資料も展示してあればよいと思います。

花鳥山遺跡も初めて行きましたので、新鮮でした。この遺跡は長く調査が行われていたということですが、まだ何か出そうな感じがします。長澤先生にも当時の調査の様子を講演してもらえたらと思います。

窪寺 康一さん

2月18日快晴の中、県内研修が行われました。私は、釈迦堂博物館のリニューアルオープン後、初めての見学です。八巻さんから、リニューアルにあたって、特に工夫した事についての説明がありました。説明の前に一通り見て回り、特に何も気に止めませんでした。説明の中で展示ケースを低くして子供目線で又、車椅子でも近くから見学出来るようにケースの下をオーバーハング状に工夫したとの事でした。普段なげない事ですが、細かな心配りを感じました。

その後、花鳥山遺跡に移動し、小林課長からの現地説明の後、付近を散策しました。協力員のT氏は昨年、鉄塔建設に伴う発掘をお手伝いして、住居数件を検出したとの話もありました。初めて甲府盆地を一望できる丘に立ちましたが、雪をいただいた南アルプスなど、花鳥山縄文人もこのような景色を見ながら、狩猟採集をしていた事に想いを馳せ帰路につきました。コロナ禍の中、計画されたスタッフ一同に感謝いたします。

北村 正仁さん

この一年、協力員の方々とお会いできないさみしい日々でありましたが、今回、釈迦堂遺跡博物館と花鳥山遺跡の見学に参加して、久しぶりに楽しい半日でした。すばらしい春の天候に恵まれ、展示の刷新によりリニューアルした釈迦堂遺跡博物館は、空間を生かした内容で土偶や土器が今までと違うもののように感じられました。花鳥山は、リニア実験線の真上にあり甲府盆地が一望でき、縄文人もこんな風景を見て暮らしていたのだと実感することができました。

用意して頂いた色あざやかなお弁当を皆様でおいしく食べ、満足のいく研修会でした。

棚 月美さん

釈迦堂遺跡博物館は、笛吹市と甲州市でなる組合立でできていること、中央道の建設で発掘がはじまり、地元のみなさんの協力でたくさんの遺物がでてきたこと、そして、その人たちの思いで博物館ができたことなど秘話をまじえながら会館の現状を説明してもらいました。展示を見て、リニューアルでユニバーサルを重視したと言う説明に納得しました。

日本遺産「星降る中部高地の縄文世界」の玄関口との思いで観光も含め来館者に接しているとのお話もすばらしいと思いました。

丹澤 恵美子さん

2月18日(木)協力会の県内研修に参加しました。最初の研修地は、釈迦堂遺跡博物館。「しゃかちゃん」と「しゃっこちゃん」が迎えてくれました。私は3年前にも見学しましたが、昨年6月にリニューアルオープンしたということで、館内の様子はかなり変わっていました。見学者の目線で土偶や土器が展示されており、Must See～見どころ～には説明が分かりやすく書いてありました。

次の研修地は花鳥山の緩やかな斜面上にある花鳥山遺跡。この遺跡からは住居跡や土器、コイの骨やドングリ、エゴマなどが出土しているそうです。南アルプス連峰が望める眺望の良いこの地に立ち、当時の人々の暮らしや集落の様子に思いを巡らしました。なお、走行するリニアを見ることができたのは、サプライズでした。

帰りは、その姿がだんだん大きくなる八ヶ岳を右手に見ながら車を走らせました。コロナ禍ですが、ちょっと遠出もでき有意義な研修となりました。事務局の皆さんに感謝致します。



(調査報告書掲載の写真)

花鳥山遺跡
発掘当時との比較

山縣 仁美さん

およそ1年前から、新たな感染症の流行が深刻になり、今年度のボランティア活動はかなり縮小、限定的になっていたなか、博物館を出ての研修が実現して、とてもうれしく思いました。

今年度リニューアルオープンした、釈迦堂遺跡博物館では、展示物の解説のみならず、遺跡発見から博物館設立のいきさつ、リニューアルのコンセプトなど博物館を運営する立場からのお話を聞くことができ、博物館の役割とその重要性がますますよくわかりました。

続いて、花鳥山遺跡を案内していただきました。甲府盆地を一望する高台で、野山の恵みで暮らしていた縄文人の気持ちを想像してみました。たくさんの遺物が出土したことから、ここは住み良いところだったのでしょう。

見学の後は、お弁当まで用意されていて、〈リニアが見える丘〉で皆さんと交流しつつお昼ご飯を食べることができ、うらかな春本番の天候にも恵まれ、本当によい一日を過ごすことができました。

田丸 進さん

釈迦堂遺跡博物館、花鳥山遺跡見学に参加して釈迦堂遺跡博物館が改装されてから初めて訪問しました。発掘された土偶 1,116 点全てが展示されたと同時に、土偶の後ろ側からも見られるような展示方法になり、これまで見る機会が限られていた後姿がみられ、土偶のすばらしさ、不思議さを感じる事が出来ました。各地にある県内発掘の縄文遺物を一か所に集約展示すると世界に誇れる見ごたえのあるものになるのではとも思いました。

水道管理設工事のために道路状に発掘された花鳥山遺跡地点は、南アルプスやハヶ岳を背景にした甲府盆地の眺めが素晴らしく、縄文人がここで暮らした気持ちがわかるような気持ちになりました。貴重な遺物が発掘されているので、いつの日か広い範囲の発掘が出来、できれば発掘場所が常設展示となる遺跡になって欲しいと思いました。楽しい体験ができました。ありがとうございます。

安原 久美子さん

花鳥山遺跡に向かって急傾斜な坂を登りながら、こんな場所で暮らしていたのかと不思議な気持ちがしましたが、道路わきに土器の破片があちこちに転がっているのを発見して、初めての経験で、とても身近に感じる事ができました。

釈迦堂遺跡博物館では、展示品の多さに驚きました。八巻さんに博物館建設の経緯やリニューアルのコンセプトのお話を伺って、熱い思いが伝わってきたのと、これから行く博物館の見方が変わっていく様なきがします。

篤木 りえさん

晴天に恵まれた、県内研修。本当に久しぶりに会えた協力員、職員の皆様。こちらも久しぶりの釈迦堂遺跡博物館。リニューアル後の事。遺物展示方の解説と、やはり圧巻の土偶の数々！焼成粘土塊の手の跡、子供の指の跡が展示された人物像の姿と重なり、とても面白く見学出来ました。

花鳥山遺跡では、発掘当時と変わらない風景が残っておりとても驚きました。お弁当を屋外で頂き、とても気持ちの良い楽しい研修となりました。ありがとうございました。

内藤 敏夫さん

春が来たような、ぽかぽか陽気の中での研修でした。

釈迦堂遺跡博物館と花鳥山遺跡は、甲府盆地が一望できる御坂山系を背にした高台で、西方に赤石山脈（通称南アルプス）が峰を連ね、日本で二番目に高い北岳（3,193m）が雪を抱え勇ましい姿を見せていました。

この地に住んだ旧石器人や縄文人などが、この地形を見ながら狩猟をしながら野山を駆けめぐり、四季を送り生活していたことを考えると感慨深いものがあります。

釈迦堂遺跡博物館では、リニューアルオープンに伴い、来館者に優しい施設や立体的に観察できる展示方法など職員の皆さんの苦心を聞きました。釈迦堂遺跡から出土した 1,116 個体の土偶や土器が展示されていましたが、土偶は青森県の三内丸山遺跡に次ぐ多さとのことです。

土偶は、女神像として造られ、妊娠や安産、健やかな成長、五穀豊穡、病気治癒など、縄文人のどんな願いがこれらの土偶に託されたことでしょうか。

現在、新型コロナと戦っている私たちは、弓矢を持って山野を駆けめぐり狩猟や採取をする必要はないと思いますが、辛抱強く生活した縄文人などに学べることは多いと思います。

久しぶりに会えた協力員の皆さんも元気はつらつで、会話も弾み心とらぐ楽しいひとときでした。研修に一人でも多くの協力員の皆さまが参加されることを願っています。

研修企画や資料等、事務局や職員の皆さんに感謝致します。次回の研修も楽しみにしています。

いつも素敵な作品をありがとうございます！

原田 みゆきさん作



山地 千恵子さん作



北村 正仁さん作

【編集後記】

コロナ禍での様々な制約や新しい取り組みがある中、令和2、3年度もたくさんの活動への御協力ありがとうございました。今回は、2年分の活動の様子をまとめました。マスクの写真ばかりなのが少し残念ですが、皆様の笑顔や優しさに支えられ励まされながら、いろいろな活動を楽しむことができました。本当にありがとうございました。

(事務局)